

地域・在宅看護学実習Ⅱ

単位数（時間数）：2 単位（90 時間） 必修/選択：必修 履修年次：4 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・越納美和

科目担当者（職位・氏名）：助教・太田ゆきの 助教・阿部鮎美 助手・内藤恵介

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：60

■ 授業概要

地域・在宅看護援助論等で修得した在宅看護の基礎知識と援助方法との統合を図り、療養者やその家族の看護の展開過程を通して、生活の質を維持・向上するための看護の基礎的能力を教授する。また、地域包括支援センターにおける保健・医療・福祉の連携、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と機能について教授する。

■ 到達目標

- 1) 対象者の健康状態を国際生活機能分類（ICF）の視点で、本人・家族の希望、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子（価値観や生活歴）といった側面からアセスメントできる。また、援助の実践（見学含む）を通して、在宅看護のプロセスがわかる。
- 2) 対象者や家族の健康状態や価値観を尊重した生活支援や社会資源の活用方法が理解できる。
- 3) 地域・在宅で求められる看護技術が理解でき、その支援の一部が実践できる。
- 4) 訪問看護ステーションの役割と機能が理解できる。
- 5) 在宅ケアにおける多職種連携の実際を見学し、チームでケアを行うことの意義が理解できる。
- 6) 地域包括支援センターにおける地域の状況を踏まえた地域包括ケア推進体制が理解できる。
- 7) 在宅ケアに関わる看護専門職者に要求される姿勢や態度が身に付く。

■ 教育内容

地域・在宅看護論

■ キーワード

在宅看護、訪問看護、看護過程、ICF、地域包括支援センター

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

月・日（曜日）	授業内容・授業方法	担当																									
<p>6月2日（月） ～ 9月12日（金）</p> <p>原則 8：30～16：00</p>	<p>●事前に学内で在宅看護実習オリエンテーションを実施する。 臨地実習は、以下のスケジュールで行う。</p> <table border="1" data-bbox="552 609 1281 1151"> <thead> <tr> <th>週</th> <th>曜日</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">1 週 目</td> <td>月</td> <td>学内実習</td> </tr> <tr> <td>火</td> <td>訪問看護ステーション①</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>訪問看護ステーション②</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>訪問看護ステーション③</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>学内実習</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">2 週 目</td> <td>月</td> <td>訪問看護ステーション④</td> </tr> <tr> <td>火</td> <td>訪問看護ステーション⑤(最終カンファレンス)</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>地域包括支援センター①</td> </tr> <tr> <td>木</td> <td>地域包括支援センター②</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>学内(カンファレンス)</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は「看護学実習要項 4年生」地域・在宅看護学実習Ⅱ参照。</p>	週	曜日	実習内容	1 週 目	月	学内実習	火	訪問看護ステーション①	水	訪問看護ステーション②	木	訪問看護ステーション③	金	学内実習	2 週 目	月	訪問看護ステーション④	火	訪問看護ステーション⑤(最終カンファレンス)	水	地域包括支援センター①	木	地域包括支援センター②	金	学内(カンファレンス)	<p>越納 太田 阿部 内藤</p>
週	曜日	実習内容																									
1 週 目	月	学内実習																									
	火	訪問看護ステーション①																									
	水	訪問看護ステーション②																									
	木	訪問看護ステーション③																									
	金	学内実習																									
2 週 目	月	訪問看護ステーション④																									
	火	訪問看護ステーション⑤(最終カンファレンス)																									
	水	地域包括支援センター①																									
	木	地域包括支援センター②																									
	金	学内(カンファレンス)																									

■ 履修条件

地域・在宅看護学概論、保健医療福祉連携論、地域・在宅看護学実習Ⅰ、地域・在宅看護援助論の単位を修得していること。地域・在宅看護技術論を履修していること。

■ 成績評価方法

オリエンテーションへの参加態度、事前学習、実習内容、実習記録等により総合的に評価する。総合して60%以上で単位を与える。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

臨地や学内実習時に個別に対応する。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
 - 23巻 地域・在宅看護論 ① 地域療養を支えるケア
 - 24巻 地域・在宅看護論 ② 在宅療養を支える技術
 - 16巻 健康支援と社会保障 ③ 社会福祉と社会保障

■ 参考書・参考資料等

- ・尾崎章子編（2021）『地域・在宅看護実習ハンドブック』中央法規出版
- ・地域・在宅看護学で紹介した図書や資料

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

実習の事前学習課題は、オリエンテーション時に指示する。

■ 担当教員からのメッセージ

既習の知識および事前学習を前提とした実習となります。

実習オリエンテーションは実習時間に含むので必ず出席してください。

実習前に実習施設までの交通手段を確認しておくこと。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

臨地で随時対応します。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師、保健師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

臨地実習指導者

■ 実務経験を活かした教育内容

在宅領域（地域包括支援センター、訪問看護ステーション、外来）における実務経験をもとに専門的で実践的な講義と演習を行います。